

# ひかりのこ

12月園便り

聖ミカエル幼稚園  
2018年11月16日

## 月主題：喜び合う

### 『成長させてくださる神さま』

この前の月曜日の礼拝は、私がお話の当番でした。1学期には、絵本やペープサートなどを使ってお話をするのですが、一年の後半になると、素話でも子どもたちはよくお話を聞くようになります。今回のテーマは、『成長する私たち』でした。

先日、年長さんが作ったジャガイモ、忠志先生が育てたニンジン、私が育てた玉ねぎを使って年長さんが、カレーライスを作り、年中少さんにもふるまったばかりでしたので、野菜の話から入ることにしました。どれも小さな小さな種から、大きく育つこと、それは神さまがしてくださる、というお話をしました。

そして、「子どもも同じだよ。園長先生の孫も、この間生まれたと思ったら、もう、何やらむにゃむにゃ、とお話をするんだよ」と話すと、みんなげらげら大笑い。赤ちゃんの話はとっても好きみたいです。「今こんなに大きくなったみんなも、神さまが大きくなってくださったんだよ。」とお話をしました。

そして私が子どもたちに見せたのは、JOC S（日本キリスト教海外医療協力会）の『冬季募金にご協力ください。』というパンフレット。「神さまが成長させてくださるのは、日本の子どもたちだけではないよ。世界中の子どもたちを、神さまは見ているんだよ。そしてね、その神さまのお手伝いしている人たちがいるんだよ。」とお話をしました。

タンザニアでは、病院に行かず、妊婦検診も受けずに自宅で出産する妊婦さんがまだ多いそうです。そのため、死産や、妊婦さんが命を落とすこともあります。JOC Sでは、病院での出産、妊婦検診の継続受診を勧める活動を行っています。そして神様に仕えたい、という強い思いの医師や看護師、助産師が現地に赴いています。その活動も、私たちのJOC Sへの募金が支えています。

お話の最後に「この聖ミカエル幼稚園を出たお姉さんも、今度タンザニアに行って、神さまのお手伝いをするんだって。みんなはタンザニアには行けないけれど、何時も神さまにお捧げしている献金が、タンザニアの病院で役立てられるよ。だから、みんなも神さまのお手伝いをしているんだよ。」と伝えました。

聖ミカエル幼稚園出身で、教会の信者さんでもある雨宮春子さ

んが、この度タンザニアでの活動を始めます。尊い活動です。今聖ミカエル幼稚園で毎日をご過ごす子どもたちも、いつか広い社会や世界に目を向けて、利己的ではない、他者を思いやる生き方を見つけていっていただければいいなあ、と願います。

園長 渡部 良子

## キリスト教保育

### 「クリスマスを待つ」

幼稚園ではクリスマスの準備が始まりました。

クリスマスまでの準備期間のことを、聖公会では降臨節、カトリック教会では待降節と言っています。その言い方に表れているように、この期間は、「待つ」ということに主眼が置かれます。イエス様の誕生を静かに待つのがこのシーズンです。しかし、私たちの日常生活では、「待つ」ということは、あまり望まれません。バスを待つのも、スーパーのレジの順番を待つのも、できれば短い方がいいのは当然です。何かをすることに比べると、待つことは非生産的なこととされています。

ところが聖書では、待つことは尊く、人にとって大切な心の状態とされています。クリスマスの物語では、多くの方が、大切な何かを待ち続けています。しかも、彼らは、白紙の状態から何かが始まるのを待つのではなく、喜びと希望につながる大きな出来事が既に始まっていて、それが目に見える形で展開していくことを「待つ」ている様子が伺えます。自分が待っていることは、すでに種が蒔かれていて、その種が自分の足下で成長し始めているということを知っているのです。

皆さんは待っていることがありますか。待つことは決して消極的な行為ではありません。むしろ、人間が希望を抱く背景には、かならず、待つという行為が伴います。子どもの成長を待つ、家族全体が幸せになっていくのを待つ、病気が治るのを待つ。待っている時間はつらく、たまには失望することもあるけれども、待つに価するものを待っているということが、人を支えます。そして、待つことによって困難を乗り越えることができるようになるのです。

チャプレン 司祭 下澤 昌